

豊島の風土を訪ねて

旧高田町編 おもかげの道

[32分]



この映画の舞台は、大正9年の町政施行時に高田町となった地域です。豊島区の南部に位置するかつての高田町は、昭和7年の豊島区誕生当時には、雑司ヶ谷町、目白町、高田町(本町・南町)などから成り立っていました。現在の南池袋、雑司が谷、目白、高田などの地域です。

幾重にもよせる歴史の波を乗り越え、四季折々の美しい風景を今にのこす高田、目白、雑司が谷のまち、そしてそこに育まれた豊かな文化。しかし、それらは決して偶然に生まれたものではありません。

この映画では、面影橋から雑司が谷鬼子母神に至る、かつて鎌倉街道といわれた一つの古い道を辿りながら、過ぎし日のこのまちのおもかげを偲ぶとともに、未来へ続くまちづくりのなかで、私たちが大切に守り育てていかなければならないものが何なのかを問いかけていきます。

[昭和60,61年度製作]

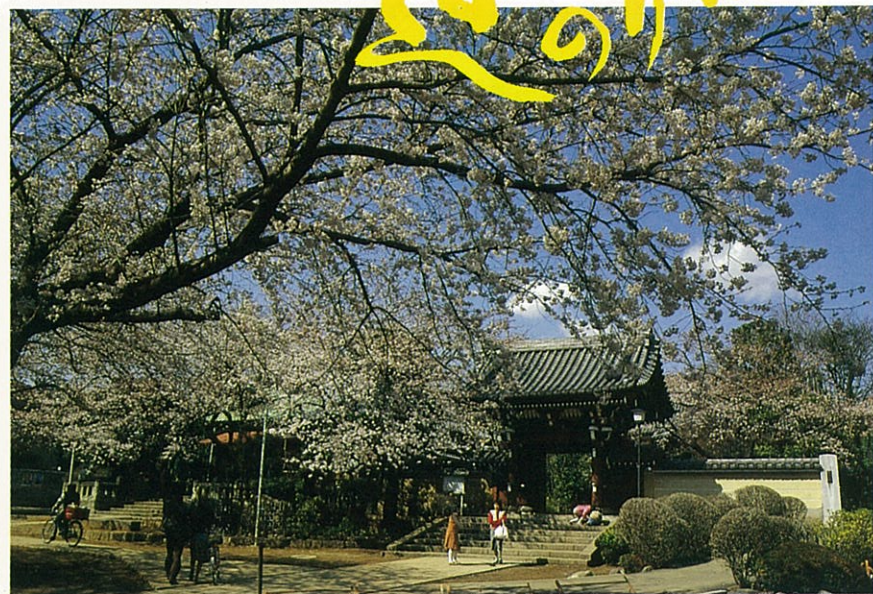
☆昭和62年文部省選定

☆第25回日本産業映画・ビデオコンクール 官公庁部門奨励賞受賞

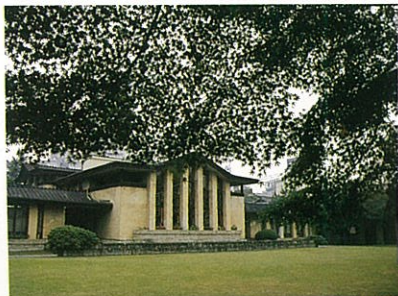
映画「豊島の風土を訪ねて」シリーズ
旧高田町編

高田
目白
雑司が谷

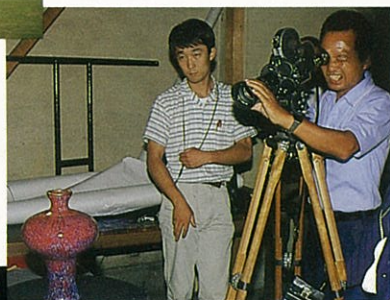
お
か
も
の
道



16ミリカラー・32分
昭和60・61年度制作



ライトが建てた自由学園



竹本焼の撮影
(東京国立博物館)



鬼子母神絵馬「大森彦七」図

フィルムの貸出し

16ミリとビデオを用意しています。



◇申込み・豊島区立中央図書館事業係

豊島区東池袋5-39-18 TEL (983) 7861

◇問合せ・豊島区企画部広報課

TEL (981) 1111

企画 東京都豊島区
制作 中日映画社

~~~~~

## 「おもかげの道」～高田・目白・雑司が谷～

~~~~~

この映画『おもかげの道』の舞台は、大正9年の町制施行時に高田町となった地域です。豊島区の南部に位置するかつての高田町は、昭和7年の豊島区誕生当時には雑司ヶ谷町・目白町・高田町（本町・南町）などから成り立っていました。現在の南池袋・雑司が谷・目白・高田などの地域です。

幾重にもよせる歴史の波を乗り越え、四季おりおりの美しい風景を現在にのこす高田・目白・雑司が谷のまち、そしてそこに育まれた豊かな文化。

この映画では、面影橋から雑司が谷鬼子母神に到る、かつて鎌倉街道といわれた一つの古い道を辿りながら、過ぎし日のこのまちのおもかげを偲ぶとともに、子供や孫の時代のこのまちのおもかげへ想いを馳せてみました。そして今、人々が歴史のながれのなかではぐくんできた郷土の過去から未来へつづく新しいまちづくりのなかで、大切に守り育ていくものが何なのかを問いかけていきます。

なお、この映画の舞台旧高田町には、今回取り上げた地域のほか、忘れてならない東池袋4丁目あたりの旧町名日出町や、かつて根津山といわれた現在の南池袋公園一帯などが含まれます。しかし、この地域の歴史は池袋の発展と密接な関係を持つので旧西巢鴨町編（池袋地域）に譲ることにしました。

★映画『豊島の風土を訪ねて』シリーズについて

昭和7年豊島区は従来の4つの町（巢鴨町・西巢鴨町・高田町・長崎町）を併せて誕生しました。これらの町はそれぞれが相互に影響しあいながらも独自の歴史的過程を踏み越えてきました。それらが現在の地域的特性を形造っています。この映画『豊島の風土を訪ねて』シリーズは4編からなり、成立当時の各町を基本的な制作舞台として特色ある文化とまちの変遷を映像により紹介していくものです。各編とも2か年度をかけて制作し、四季おりおりの郷土を盛りこみ展開していきます。



広重画『山吹の里姿見橋』現在の神田川にかかる面影橋

【構成概要】場面順

オープニング／伊能忠敬『江戸御府内図』／面影橋／広重筆『高田姿見のはし 梯の橋砂利場』、『山吹の里 姿見のはし』／『江戸名所図会』山吹の里伝説／氷川神社／南蔵院／宿坂／金乗院／俱梨迦羅庚申塔／鬼子母神参道櫻並木／鬼子母神堂／境内大いちょう／絵馬『三人静白拍子』図／絵馬『大森彦七』図／広重筆『雑司ヶ谷の図』／歌麿筆『玄英の雑司ヶ谷詣』／川口屋／すすきみみずくとわらべ歌／法明寺と梵鐘／清立院／宝城寺／お会式／本納寺／金子直徳の供養塔／『若葉の梢』／三光天像／あさがお塚／法明寺の除夜の鐘／雑司が谷霊園／竹本焼／高田小学校の創立／目白駅の誕生／学習院／雑司が谷宣教師館／自由学園／神田川の染色業／千登世橋と目白通り／都電／神田川と桜並木／雪の雑司が谷／旧高田町地域の春／エンディング